

市民ネットワークわかば

まちづくり通信

〒264-0033 千葉市若葉区都賀の台 4-5-15

☎043-284-2339 fax: 043-284-2362

No.73 ホームページアドレス http://www.chibanet.jp/wakaba/

被災地を訪ねて初めてわかること

つながることで
ボランティア

2012年5月に、市民ネットワークわかばのメンバーが岩手県宮古市を訪れました。

▲夕食後のミーティング

近所の知り合いから紹介していただき、民間のボランティア団体に参加しています。震災直後は、側溝や床下のヘドロの掻き出しなど力仕事が多かったです。

家財道具の運び出しや、仮設住宅へ暖房器具を届けたり、濡れた本を乾かすなど近隣の皆さんとの信頼関係を築きながら地道な作業を行っていました。被災された人たちが避難所から仮設住宅へ移られてからは、仮設住宅のある広場で屋台を設けて焼きそばや餅つきをして振る舞っています。宮古のボランティアスタッフから「ただ作業したいのなら他にやってください。」と言われました。地元の人と知り合いになり、お話しをする中から気持ちを受けとめられるよう耳を傾け、「また来るよ」と目をあけて再会すると、日々の生活の中にゆさややるべきことをみつけている様子が見えました。

人やまちが回復していく場に立ち会わせてもらい、私は自分の生活を振り返るきっかけとしています。

(松尾由美)



▲仙台市のガレキ焼却施設

ガレキ処理 視察報告
仙台市が速かったワケ

被災地の中でもガレキ処理にいち早く手を付け、自治体内での処理が完了に近づいている仙台市を今年の5月下旬に訪ねました。

仙台市では30年おきに大地震が来ると想定し、ガレキ処理についても、地域防災計画に位置付け、神戸市の経験を取り入れるなど準備をしていたとのこと。但し、津波が来るという想定はなかったそうですが、事前の準備がこんなにもその後の復旧のスピードに大きな影響を与えているのか、と考えさせられました。

3.11震災後はすぐに神戸の分野別職員を派遣してもらい、ガレキ処理の立ち上げに協力してもらったとのこと。「根回しなどせずやっちゃいました。『制度は後からついてくる』という神戸市の助言があったのです」との話からは、仙台市職員の自信を感じました。

また、ガレキをどこかに運んでから分別するのではなく、初めから現場での分別を徹底したことで、他自治体とはその後の処理のスピードがぜんぜん違ったわけです。最初、回収業者から文句はあったけれど、押し切ったらその後、慣れて分別も上手くなったとのこと。職員に意気込みがあれば突破していけるものなんだと感じました。

仙台市の最終処分場に余裕があったことも復旧が進んだ大きな要因ですが、先を見る目と実行力がなければ、大災害時の対応は後手後手に回ります。

千葉市でもいざという時にあわてないための備えが絶対必要、と感じながら帰路につきました。

(山田京子)

あきらめないで声を出し続けよう

1000万人の脱原発署名



作家の澤地久枝さん、評論家の内橋克人さん、ルポライターの鎌田慧さんが、「さようなら原発 1000万人署名」と「さようなら原発9・19集会」を告知する記者会見を開いたのは、2011年6月15日でした。市民ネットワークでもこの活動に賛同し、街頭署名を行ってきました。

市民ネットワークわかばで2012年5月末までに行った街頭署名は10回。都賀駅、千城台駅、千葉駅弁天口などに立ち、697筆を集めました。

小さなお子さんの名前を代筆した若いお母さん。きれいな字で丁寧に書いていた小学生の女の子。一度は前を通り過ぎ、また戻ってきて署名してくれた高校生。しばらく立ち止まって話を聞いていた人が、近付いてきて署名をしてくれたこと。「ごくろうさまです」と声をかけてくれた年配の女性…様々な立場の人たちと脱原発への思いを一つにすることができました。

5月末でいったん締め切られた署名は6月15日、首相官邸において野田佳彦首相宛てに提出されました。呼びかけ人の大江健三郎さん、内橋さん、鎌田さん、澤地さんは、「原発に依存しない社会をめざす」という声を、具体的なエネルギー政策の転換へとつなげるよう、対応した藤村修官房長官に要請しました。

7月12日現在で、784万8637筆。目標の1000万まであと少しです。まだの方は、ぜひ脱原発の意思を署名という形で表明してください。未来を担う子どもたちには、原発に反対する気持ちを表す手段がありません。私たち大人が声を集めて、日本のエネルギー政策を変えていきましょう。

(岩崎明子)



わかばのいずみ

～若葉区で活動する
団体を紹介します～

「ゆうゆう」は千葉市の障がい者福祉の一端であるワークホーム制度を利用して、平成7年に誕生。設立には市民ネットワークの応援もあり、以来たくさんの人達に支えられながら、現在、障害のある利用者7人と14人のスタッフでリサイクルショップを運営している。



アットホームな雰囲気と、どこよりも安いというところで、今ではちよっと名が知られている(と自分たちでは思っている)。

18年間、多くのお客様に来ていただきお得意様も増えて「地域の居場所」的な役割も果たしている。障がい者への理解を…という思いで開設した「ゆうゆう」であるが、お客様のほとんどが地域の方たちなので、普段の暮らしの中でも自然に温かく見守ってくださり、とてもありがたい。

近年、地域でも高齢化に伴う生活形態の変化が見られ、家の片付け、不用品の整理を依頼されることも多く、支えあう事の大切さを実感している。ご来店をお待ちしています！

ワークホーム&リサイクルショップ ゆうゆう

千葉市若葉区千城台西1-4-7 Tel & Fax 043-237-0760
10時~16時(土・日・祝日 お休み)

弁護士による法律相談

◎初回無料◎

電話で市民ネットワークちば事務所までご予約ください。
☎043-201-2551
(平日 10時~16時半)

参加者募集中! 9月1日~3日

空間・土壌放射線量測定

一緒に測りませんか?

申し込み先 市民ネットワークわかば
☎284-2339